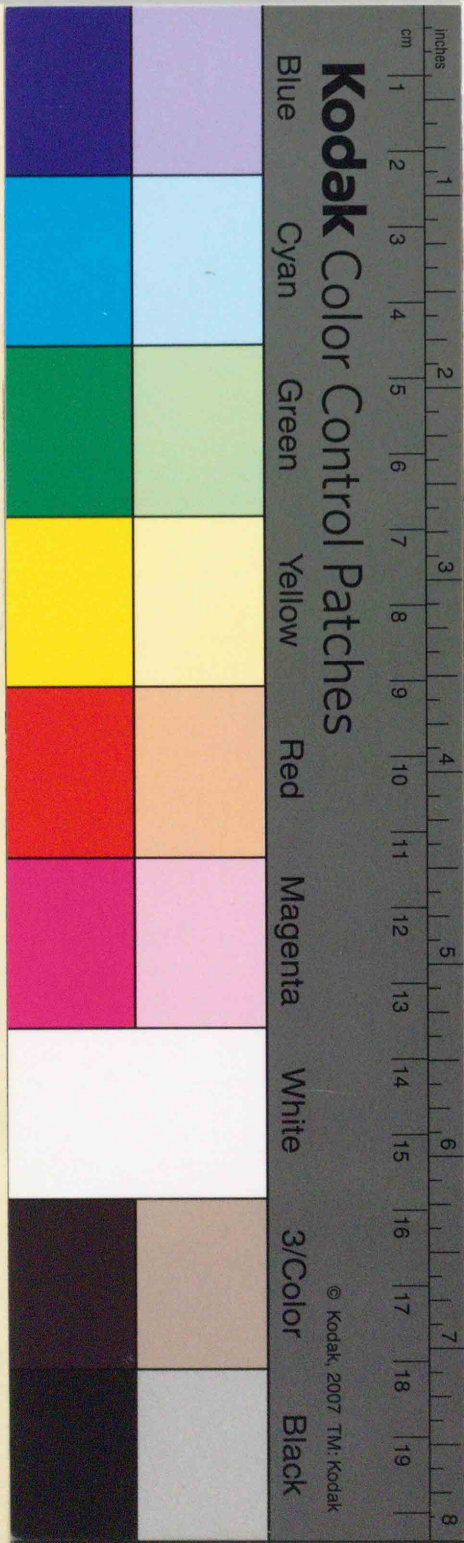


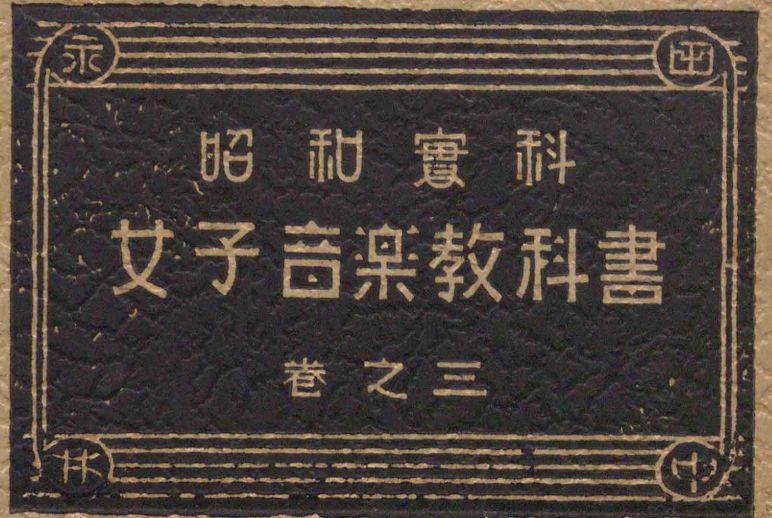
41034

教科書文庫

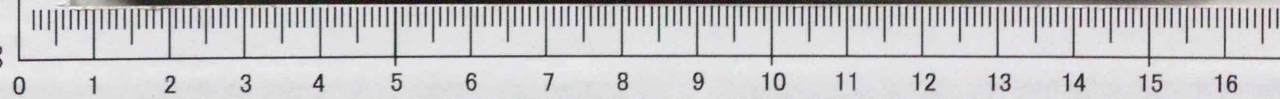
4
760
42-1934
01304 49542 49452



教科書文庫
4
760
42-1934
0130449452



広島大学図書
0130449452



中央図書館

昭和九年二月十三日
文部省検定済
高等女学校音楽科用

昭和十一年八月八日
文部省検定済
実業学校音楽科用

教科書文庫

4

760

42-1934

0130449452

昭和憲科
女子音楽教科書

卷之三

永井幸次
田中銀之助
共編

広島大学図書

0130449452



広島大学図書

0130449452



緒 言

本書は四ヶ年制の高等女學校及實業女學校の音楽教科書として編纂したのである。

由來高等女學校並に實業女學校は各々其特色立場を異にして居るが編者は此の點を十分考慮して其の何れにも適應する様周到なる注意を拂つて茲に其の完成を見たのである。

即本書は第三卷を以て一先づ完結し尙進んで學ばんとする人々(第四學年)のために第四卷をも編纂し其の相互の連絡を計つたのである。

故に修業年限三ヶ年の實業に關する女學校としても修業年限四ヶ年の高等女學校並に實業女學校としても共に本書を採用して音楽教育の實を擧げる事が出来るのである。

編 者 識

昭和實科
女子音樂教科書
卷之三

目次

第一學期

(一) 音階練習(1. 2. 3.)	一
(二) 音程練習(1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11.)	三 六
(三) 嬰變兩種長音階の調子記號	六
(四) 音程及其轉回	七
郊外遠足	八
(五) 和音及和聲	一〇
(六) 三部輪唱(イ.ロ)	一一
春のあした	一二
青春の歌	一四
大和魂	一六
海邊に立ちて	一八
樹 蔭	二〇
ば ら	二二
涼 風	二四

第二學期

清き心	二六
他郷の月	二八
ゆかしき花園	三〇
妙なる音	三二
(七) 短音階と主音・導音	三四
(八) 長音階と短音階との對照	三五
(九) 和音(其の二)	三七
(一〇) 短音階の三和音	三七
(一一) 短音階練習	三八
秋の夕ぐれ	三八
まごころ	四〇
學友	四二
霰	四四

目

次

二

第三學期

冬景色	四六
日章旗	四八
慈母	五〇
祝へや歌へ	五二
早春	五四
告別の歌	五六
樂典總括	五八

目

次

三

(一) 音階練習

變調 $\frac{4}{4}$

1.

The musical score consists of eight staves of music, each containing a scale exercise. The key signature has two flats (B-flat and E-flat), and the time signature is 4/4. The exercises are numbered 1 through 8. Each staff begins with a treble clef and a common time signature. The notes are written in a sequence that moves up and then down the scale, with some variations in rhythm and articulation. The paper is aged and yellowed, and the ink is black.

音階練習

二

(二) 音程練習
(五度音程)

三

(六度音程)

4

5

四

Detailed description: This page contains eight musical exercises for six-degree intervals. Exercises 4 and 5 are in C major, exercise 4 in 4/4 time and exercise 5 in 3/4 time. Exercises 6, 7, and 8 are in D major, exercise 6 in 4/4 time, exercise 7 in 3/4 time, and exercise 8 in 2/4 time. Each exercise consists of two staves of music, with a 'v' marking above the first note of each phrase. The exercises show various rhythmic patterns and melodic lines.

(七度音程)

7

8


9

五

Detailed description: This page contains five musical exercises for seven-degree intervals. Exercise 7 is in C major, 4/4 time. Exercise 8 is in D major, 2/4 time. Exercise 9 is in D major, 4/4 time. Each exercise consists of two staves of music, with a 'v' marking above the first note of each phrase. The exercises show various rhythmic patterns and melodic lines.

(八度音程)

10. 

11. 

(三) 嬰變兩種長音階の調子記號

→ 嬰種七調子



ハ ト ニ イ ホ ロ 嬰 嬰
 長 長 長 長 長 長 嬰 嬰
 調 調 調 調 調 調 長 長
 調 調 調 調 調 調 調 調

→ 變種七調子



ハ へ 變 變 變 變 變
 長 長 口 木 イ ニ ト 八
 調 調 長 長 長 長 長 長
 調 調 調 調 調 調 調 調

(四) 音程及其轉回

音程

- 一度音程…… 完全一度 = (同 音)
- 二度音程…… { 長二度 = (全 音)
短二度 = (半 音)
- 三度音程…… { 長三度 = (二 全 音)
短三度 = (一全音一半音)
- 四度音程…… { 完全四度 = (二全音一半音)
增四度 = (三 全 音)
- 五度音程…… { 完全五度 = (三全音一半音)
減五度 = (二全音二半音)
- 六度音程…… { 長六度 = (四全音一半音)
短六度 = (三全音二半音)
- 七度音程…… { 長七度 = (五全音一半音)
短七度 = (四全音二半音)
- 八度音程…… 完全八度 = (五全音二半音)

音程の轉回

- 長二度の轉回は短七度 短二度の轉回は長七度
- 長七度の轉回は短二度 短七度の轉回は長二度
- 長三度の轉回は短六度 短三度の轉回は長六度
- 長六度の轉回は短三度 短六度の轉回は長三度
- 完全四度の轉回は完全五度 完全五度の轉回は完全四度
- 增四度の轉回は減五度 減五度の轉回は增四度
- 完全八度の轉回は完全一度 完全一度の轉回は完全八度

郊外遠足

ブレードピユレー

♩ = 100.



1. ヒ コトコモルマ ナビヤノ を マキウチ ラタ
2. か ろくかをるは るかぜに き そはれつつの



チイデテ ス ミレサケルヒ ロノハラ ケ
べゆけは か すむそらにど りはなき 鳥



フノヒトヒホ ガラカニ オモフドチウ チツレテ
めるはなにて ふはまふ めにみゆるは なのいろ



ヒネモスニア ソビナバーヒ ゴロセマキワ
みみにきくじ りのこゑ一す べてひとのこ



かムネモイ トモヒロクナ リヌベシ
ころをばき よくあらふも ののみぞ

郊外遠足

八

郊外遠足

犬 童 球 溪

一、

日毎こもる まなびやの

せまきうちを

立ち出で、

薫^{すみれ}咲ける 廣野原

けふのひとひ

ほがらかに

思ふどち うちつれて

ひねもすに

遊びなば

ひごろせまき わがむねも

いともひろく

なりぬべし

二、

かろくかをる 春風に

さそはれつゝ

野邊ゆけば

かすむそらに 鳥はなき

笑める花に

蝶は舞ふ

目に見ゆる 花の色

耳に聞く

鳥の聲

すべて人の 心をば

清く洗ふ

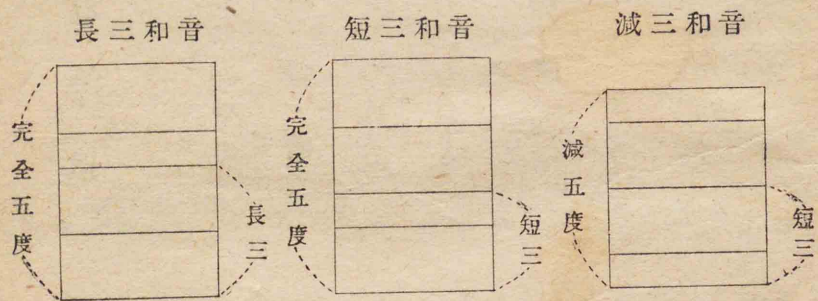
ものゝみぞ

郊外遠足

九

(五) 和音及和聲

- 一. 或る音を基礎とし、其上方三度の音と五度の音とを重ねたるものを三和音といひ、其三和音の上に更に七度の音を重ねたるものを七の和音と云ふ。
- 二. 長音階の三和音には長三和音、短三和音、減三和音の三種がある。



長音階の三和音 七の和音



- 三. 各和音は又これを轉回し或は和音中の或る音を省略又は重複して種々なる變化を興へて用ひるものとす。而して和音運用の法を稱して和聲といふ。

(六) 三部輪唱

(イ) 一調

(ロ)

春のあした

未詳

春のあした

mf ♩ = 69

1. ホーボノ アクル ヒガシノ ミツラ
 2. あしーたの かすみ いつしか はれて

アカーネノ クモハ イツシカ ネエテ
 をがーはの ながれ ひびきも のどか

mp アサヒハ ヤマニ イマシモー ノボル
 いづこに ゆくか たびびとーけふも

mp カガヤク ヒカリ アアソノ ヒカリ
 かどべの みちを ささやき とほる

キドーベノ ウメニ ヲグヒス ナケバ
 げにーげに はるの あしたの ながめ

一一一

ヒ カ ゲ モ ニ ホ ヒ ハ ナ ガ サ テ ラ ス
 ふ き く ろ か ぜ の いろ さ へ に ほ ふ

春のあした

春のあした

一、ほのく明くる
 あかねの雲は
 朝日は山に
 かやく光
 井戸べの梅に
 日かげも匂ひ

二、あしたの霞
 小川の流れ
 いづこに行くか
 門への道を
 げにく春の
 吹きくる風の

今 中 風 溪
 東のみ空
 いつしか消えて
 いましものぼる
 あゝその光
 鶯啼けば
 花笠照らす

いつしかはれて
 ひびきものどか
 旅人けふも
 さゝやきとほる
 あしたのながめ
 色さへ匂ふ

一一三

青春の歌

強弱 普通の強さ メルリニ

4/4 $\text{♩} = 112$

mf

1. ケ イメーイラ ラシク ア シタ ター 百ー ベ

2. あ かるーさひ かりよ わ かば のーもー りに

ヨ コクーモタ ナ ビキアサカ セー スズー シ

な さかーふも も どりしらべ は ーたかー し

オ オスカシサ ヤケシ ワ レラノア シターヨ

お おたかしは るけし わ れらのゆ く てーよ

mp

ミ ヨミーヨ ホ ガラニ ヒ カシハアケ テ

み よみーよ ゆ たかに し みづはわきて

mf

カ ガヤークア サヒハ ヤ ガテゾーイー テム

わ かるーにか かやき い づみ はーあー ふる

f

ア アサヒセイ シュ ノワレラ ガーイノー チ

あ あいづみせい じゆ んのわれら がーちかーら

青春の歌

山岡利生

一、 鶏鳴雄々しく 晨を呼べは

横雲たなびき 朝風すゞし

おゝすがし、さやけし、吾等のあしたよ

見よ 見よ ぼがらに東はあけて

輝く朝日は、やがてぞ出でむ

あゝ朝日 青春の吾等がいのち

二、 明るき光よ 若葉の森に

鳴き交ふ百鳥 しらべは高し

おゝ高しはるけし われ等の行手よ

見よ 見よ 豊かに清水は湧きて

若さにかゞやき 泉はあふる

あゝ泉 青春のわれ等が力

大和魂

文學博士 佐々木信綱

一、大君のみ民と生れしからは

砲こそは肩にせね 太刀こそ佩かね

國 思 ふ 心 丈夫におとらじな

はげめ はげめ 誠もてたゆみなく

はげめ はげめ 國のため一すぢに

二、國につくす道さはにあれども

わがつとめ怠らで 家とゝのへよ

これぞ國の名を 世にあげん基なる

はげめ はげめ 誠もてたゆみなく

はげめ はげめ 家のため一すぢに

大和魂

グ レ ー

♩ = 108.



1. オホキミノ ミ タミトウマ レシカラ ハ ツ
2. くーににつく すみちさは にあれども わ



ツコソハカタ ニセネ タ チーコーソ ハ
がつとめお こ たらで い へーどーご の



カ ネ ク ニオモフ ココロマス ラヲニオト
へ よ こ れぞく に のなをよに あげんもど



ラージーナ ハゲ メ ハゲ メ マコ
ゐーなーる はげ め はげ め まこ



トモテタユ ミーナーク ハゲ メ ハゲ
ともてたゆ みーなーく はげ め はげ



メ クニ ノーターメ ヒト スヂ ニ
め いへ のーたーめ ひど すぢに

海邊に立ちて

ネルソン

海邊に立ちて

♩ = 84. *mp* *mf* *f* *mp* *mf*

1. モ ノ ハ ナ ニ ホ ヒ ラ ヤ ヘ ノ シ - ホ - デ ア
 2. か ね の わ ひ び き て あ ま の ど - ま - や く

ケ ユ ク ミ ソ ラ ニ ア サ ヒ ハ カ ガ ヤ キ ソ
 れ ゆ く う ら わ に け む り は た な び き

ナ レ ノ - マ - ツ バ ラ マ サ ゴ ハ シ - ロ ク ヨ
 ぎ は の - い - は ま に な が む る か - な た み

セ タ ル ナ ミ マ ニ カ モ メ ハ ア ソ ブ
 ち くる う し ほ に し ら ほ は か へ る

ア ハ レ ス ガ シ ヲ ト メ シ ホ - ク - ム ウ
 あ は れ や さ し を ど め ふ ね - ま - つ う

レ シ ヤ ワ ガ ト モ タ ノ シ ヤ ヲ ト メ
 れ し や わ か ど も た の し や を ど め

一八

海邊に立ちて

海邊に立ちて

一、

藻の花匂ひて
 明けゆく御空に
 磯馴の松原
 寄せくる波間に
 あはれ清し

二、

鐘の音響きて
 暮れゆく浦曲に
 水際の岩間
 満ちる潮に
 あはれ清し

八重の潮路
 朝日は輝き
 眞砂は白く
 白鷗は遊ぶ

海人の苦屋
 煙は棚曳き
 ながむる彼方
 白帆は歸る

少女が友
 少女が友
 少女が友
 少女が友

松岡 實

一九

樹 蔭

モツアルト.

樹
蔭

♩ = 116.

1. テーリニ アーリテ アー ツキヒ
2. めーちも どほく ひー らけた

テヘダ テテス ズシキコ タカゲ
るしたたるみ どのこ したか

ケー フ モ シ パ シ コ コ ニ キ
カー セ ニ ソ ヨ ク キ ギ ノ ハ や ど
くー さ を し き て ない こ
あー せ を ふ き て ない こ

テノ ー コヘ パコ コロモヤ スラカニ
る ー ササ ヤク コエ サヘ ナ ツ カ シ キ
ま ー せ み な く こ る さ へ な つ も の か し

110

二、

汗 草 目 風 今 照
蟬 空 を し 路 に い 日 隔
なく は た も さ そ こ も 照
こ ふ し る く や よ へ て 照
る て む き 遠 く ば し 涼
さ い ら な み く こ 木 涼
へ こ が な どり ひ さ 々 々
な と 雲 の 木 の は の 安 木
つ き 雲 の 下 下 につ 来 下
かし 峰 かげ なつ かに 木 日
き かげ なつ かに 木 日

樹 蔭

松 岸 寛 一

樹
蔭

111

薔 薇

ム ア 一.

薔
薇

♩ = 46-50.

1. ソラ モ ニーホー ヒテ アケ ユク ナツー
2. ひかり おぼろに くれ ゆくなつー

ノ ヒカ リホーノー ホノベニ ハラサキー
の ゆふ べほのー かにしろ ばらにほー

ヌ アア ベ ニバー ラースー ガタモキー
ふ ああ しろはーらー その かもーたー

ヨーク ナツ ノ ヒーカー リニホノ
へーになつ の ゆーふー べをほの

ホノサキー ヌ ナツ ノ ヒーカー
かににほーふ なつ の ゆーふー

リニホノ ホノサキー ヌ
べをほの かににほーふ

二二

薔
薇

薔 薇

二三

一、空も匂ひて
ひかりほのく
ああ紅ばら
夏のひかりに
ああ白ばら
夏のゆふべを

明けゆく夏の
紅ばら咲きぬ
姿も清く
ほのく咲きぬ「折返し」

二、ひかりおぼろに
ゆふべほのかに
ああ白ばら
夏のゆふべを

暮れゆく夏の
白ばらにほふ
その香もたへに
ほのかに匂ふ「折返し」

大
井
廣

涼 風

英 國 民 謡

涼

風

♩ = 76. *mf*

1. モ ス ソ チ ウ ル ホ シ テ ワ ケ ユ ク
 2. セ ミ ナ ク ア を は 加 け み ぞ り も
 3. ホ ノ カ ニ タ チ ノ ホ ル カ ヤ リ ノ

ク サ ノ ハ ラ オー ク ツ ユ ホ ロ ホ ロ ト カ セ
 ニ マ ヤ カ ニ ニー ス ツ ェ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ
 ウ ス ケ ム リ シー ツ ケ キ タ ソ カ レ ノ カ セ

ニ コ ホ レ テ キ ラ キ ラ サ ス ヒ ニ カ
 は そ よ ふ ム キ い つ し か あ つ さ も わ
 ハ ソ ヨ ソ ヨ ホ ホ ホ ラ つ し か あ つ さ も わ

カ ヤ キ ス ズ シ ヤ ナ ス ズ シ ヤ ナ ス
 る る ス ズ シ ヤ ナ ス ズ シ ヤ ナ ス
 ヤ ク ス ズ シ ヤ ナ ス ズ シ ヤ ナ ス

二四

1. ガー シ キ コ ノ ア シ タ
 2. コ ノ ア シ タ
 り は 仰 る の ま ひ る
 レ テ ユ ク コ ノ ユ フ ベ

涼

風

涼 風

二五

一、もすそをうるほして
 わけゆく草の原
 おく露ほろ／＼と
 風にこぼれてきら／＼さす日にかゞやき
 涼しや 涼しやな 清しき このあした
 涼しや 涼しやな 清しき このあした

二、蟬なく青葉かげ
 みどりもこまやかに
 こずゑをゆるがして
 風はそよふきいつしか暑さも忘る、
 涼しや 涼しやな てりはゆる このまひる
 涼しや 涼しやな てりはゆる このまひる

三、ほのかにたちのぼる
 かやりのうすけむり
 しつけきたそがれの
 風はそよ／＼をばかすめてさ／＼やく
 涼しや 涼しやな くれてゆく この夕
 涼しやな 涼しやな くれてゆく この夕

松 岸 寛 一

清き心

♩ = 92.

シールド.

清
き
心



1. ミヨ ヤミヨヤ アキ ノスミタル ミ ソラノケシキー
2. みよ やみよや たえ ずながるる い はまのましみー



ヲ ホシ ハヒカリ ツキ ハ カガヤク コ
ブ いつかにごり いつか すがれし こ



レ コソ テンシラン マン イサ ヤミガケ ヤマ ト ラミナダ
れこそでんらん まん いさ やみかけやま どもをみなか



マニモ マサル トゴコロ ツネ ニタモテタカ
かみにま-さる まごころ つね にあれなきよ



クスメル アキーノー ミソラノ ゴトクニ
くすめる たにのしみづのごとくに

二六

清
き
心

二七

二

見よや
見えぬ
見よや
見よや

つねに
谷あ鏡
のれな
清水の
くす
めると
く

岩間の眞清水
をみな
天真爛漫
をみな

常
に

秋た玉
のも
み高
空のく
ま
す
る

星は秋の澄みたる
月はひかり
かがやく
み空のけしきを
これこそ

天真爛漫
をみな

清
き
心

宮
脇
義
臣

他郷の月

ヘ イ ス.

♩ = 66. 変ホ調



1. ヨクトーヨロコブ チチハハノキミ
2. よひのしぐれはあどなくはれて



アレアーネウヘトカケクールイモト
かたぶくつきにかりなきわたる



コヒシキワガヤニウレシーヤイマ
あはれあのかりもまたわがごと



カヘルートミシハユメナーリケリ
わかぬやきつるそのふるさと

他郷の月

二八

他郷の月

一、よくと悦ぶ 父母のきみ

あれ姉上と かけ来る妹

こひしき我家に 嬉しや今

歸ると見しは 夢なりけり。

二、宵の時雨は 跡なく晴れて

傾く月に 雁鳴きわたる

あはれあの雁も また我がごと

別れや來つる そのふるさと。

中村秋香

他郷の月

二九

ゆかしの花園

獨逸民謡

♩ = 92



1. ク レ ナ 井 マ シ ロ チ テ イ ロ ナ
 2. は す る の ま た ま こ ぼ さ り す や
 3. シ ロ カ ネ コ カ ネ カ ラ リ テ ソ



ナ ヘ ヤ ヘ タ ワ ワ ニ
 ぞ せ る え た の う ね り て
 ノ タ ノ ニ イ ロ ハ ニ ホ ハ ズ



アア バラサ ク ソノゾ ユーカ シ キ
 ああ はぎさ く そのぞ ゆーか し き
 アア キクサ ク ソノゾ ユーカ シ キ



アア バラサ ク ソノゾ ユーカ シ キ
 ああ はぎさ く そのぞ ゆーか し き
 アア キクサ ク ソノゾ ユーカ シ

ゆかしの花園

三〇

ゆかしの花園

ゆかしの花園

一、紅 眞白 乳色

七重八重 たわわに
 あ、薔薇咲く園ぞ ゆかしき
 あ、ばら咲く園ぞ ゆかしき

二、葉末の眞玉 こぼさず

やどせる枝の うねりて
 あ、萩咲く園ぞ ゆかしき
 あ、萩咲く園ぞ ゆかしき

三、白銀 黄金 薫りて

其他の色は 匂はず
 あ、菊咲く園ぞ ゆかしき
 あ、菊咲く園ぞ ゆかしき

犬
 童
 球
 溪

三一

妙なる音

モツアルト
田中銀之助編曲

♩ = 96.



1. ツ キーハ サユル カターノノ
2. ど もーしー もるる こたーちーのー



サ ト ノ イヘヨリモル ルーカ
な かの いへよりひびくーか



ヲゴトノシーラー ベハ
ピアノのしーらー ベは



ムーセビテ ナキテ
つーぶきーて たえて



ウレヒテナーゲー キーテ アアタレニキ
いかりてなごみーて ああたれにき



ケヨノアハー レターレノシーラー ベカ
けよのあはー れたーれのしーらー ベか

妙なる音

三三

妙なる音

三三

妙なる音

一、

月は冴ゆる

片野の里の

犬童球溪

家より洩るゝか

小箏の調べは

むせびて泣きて

憂ひて歎きて

あゝ誰れに聞けよの

あはれ誰れの調べか

二、

燈もるゝ

木立の中の

家よりひびくか

ピアノの調べは

續きて絶えて

怒りて和みて

あゝ誰れに聞けよの

あはれ誰れの調べか

(七) 短音階 附 主音、導音

すべて音階の第一音は之を**主音**といひ、第七音は之を**導音**といふ。導音とは「主音を導き出す様な感じのする音」といふ意味であるから導音は主音に接近した音でなくてはならぬ。故に長音階のシ(導音)ド(主音)の間は半音になつて居る。

短音階は次に示す様にラーラー'までの音階であつて之を**自然的短音階**といふ。

自然的短音階



以上述べた自然的短音階は第七音と主音との間が全音であるから其の第七音は導音たる資格がない。そこで其の第七音を半音上げたら主音との間が半音になるから茲に始めて導音が出来るのである。

之れを**和聲的短音階**といふ。(げんごにまかつた)

和聲的短音階



以上述べた和聲的短音階は半音の個所三つと一音半(増二度)の個所があつて歌ふべき音階として不自然である。この缺陷を取り除く爲めに第六音をも半音上げたならば茲に始めて歌ふべき音階として完全なる形式が整ふので之れを**旋律的短音階**といふ。而してこの音階に於ては下降の際は凡て本位音とするのである。

旋律的短音階



(八) 長音階と短音階との對照

		短音階			
導音	ハ	イ	ト	ハ	ハ
	イ	イ	ト	ハ	ハ
	ト				
	ハ				
	ニ				
	ハ				
	ハ				
	イ				

(長音階) 自然的 (和聲的) (旋律的)
(上行) (下行)

ハ 長音階

い 自然的短音階

い 和聲的短音階

い 旋律的短音階

以上の如くハ調長音階の主音より短三度下即ちハ調長音階の第六音(い音)を主音として成立せる短音階はその長音階と對照するに互に共通せる音が多い。(自然的短音階は全部共通音)故にこれ等長短兩種の音階は相互に關係音階といふ。其の例を次の表に示す。

(關係調)	(關係調)	(關係調)
ト長調 (短三度)	ホ短調	ニ長調 (短三度)
(關係調)	(關係調)	(關係調)
ヘ長調 (短三度)	ロ短調	ハ長調 (短三度)
(關係調)	(關係調)	(關係調)
ニ長調 (短三度)	ロ短調	イ長調 (短三度)
(關係調)	(關係調)	(關係調)
ヘ長調 (短三度)	ト短調	ニ長調 (短三度)
(關係調)	(關係調)	(關係調)
ホ短調 (短三度)	ニ長調	イ長調 (短三度)
(關係調)	(關係調)	(關係調)
ニ長調 (短三度)	ロ短調	イ長調 (短三度)
(關係調)	(關係調)	(關係調)
ヘ長調 (短三度)	ト短調	ニ長調 (短三度)

以上述べた關係長短兩音階は其の共通音多きが故に同一調號を有する譜表に記される。(但しハ長調・い短調は調號がない)尚ほこれを譜表に表示する

ハ長調 ト長調 ニ長調 イ長調 ヘ長調 變ロ長調 變ホ長調
い短調 ほ短調 ろ短調 嬰へ短調 に短調 と短調 は短調
い主音 ホが主音

(九) 和音 (其の二)

一. 和音のことについては本書一〇頁に於て説明したが此の外に尙短音階の三和音がある。短音階の三和音には長短減の外に増三和音がある。増三和音は長三度と増五度との音を重ねたもので之を次に示す。

(一〇) 短音階の三和音

短三和音, 減三和音, 増三和音, 短三和音, 長三和音, 長三和音, 減三和音.

二. これ等の三和音は或は轉回し或は或る音を重複し又は省略する等種々の變化を與へて運用するのであるが其の運用方法は特殊の研究者でない限り必要を認めないから本書には之を省略した。唯其の基礎となる和音の如何なるものかを充分に了解しておけばよい。

(一) 短音階練習



イ調 単音階 秋の夕ぐれ リベリデイ



1. タソガレノクモノイツシカキエエ
2. ふみよむまごべにかせきへさだえ



キスミタルツキカゲミソラニカカレ
てまがきのあたりかねになくこほろ



リサビシサハワキーツツモナカナ
ぎあはれさはわきつつもなかな



カニノゾミヨミガへル
かにのぞみよみがへる

秋の夕ぐれ

今中楓溪

一、 たそがれの雲の
澄みたる月かげ

淋しさは
なかくに

希望 蘇生
わきつつも

二、 ふみよむ窓べに

まがきのあたりか
あはれさは
なかくに

希望 蘇生
わきつつも
音になくこほろぎ
風さへとだえて

まごころ

イ調=イが主音

ベートウフエン.

♩ = 63.



1. ヒ トサトハ ナーレンヤ マチノーフ セ ヤヤ
2. ふ くかせも りーくるあ じろのー(や)う ふほ



ミタルハ ハーテバ スクハンモノ ト アー
そりしね がーほをつ くつくま もりあー



ハレヤヲ トメノク スシノモート ニーミー
はれやを だめのほ だけのもーご にーめー



ユキヲワ ケユクス ガーダオーホーロ
ぐみをこ ふなるか ひーなやーせぬ

まごころ

四〇

まごころ

まごころ

四一

一、人里離れし

病みたる母をば

あはれや少女の

深雪をわけゆく

救はんものと
醫者のもとに

山路の伏屋

姿おぼろ。

武島又次郎

二、吹く風もりくる

細りし寝顔を

あはれや少女の

恵みを乞ふなる

綱代の屏風

つくぐまもり

佛のもとに

腕瘡せぬ。

學 友

學
友

獨逸民謡

♩ = 116. *mf*

1. ア ル ヒ ハ ハ ナ ノ チー ル モ シ ラ ス
ア ル ヒ ハ ツ キ ノ テー ル ニ ソ ム キ
2. か を り も た か く まー ど に ふ け る
ま な び の か せ を みー に ぞ う け て

ヒー タ ス ラ マ ナ ビ ノ ミー チ ニ ソ スー ス マ ン ア
かー か や く み く に に いー さ を し たー て て ん あ

ハ レ ト モー ヨ テ ラ バ ト リー テ
は れ ど もー よ て を ば ざ りー て

四二

學
友

學 友

四三

一、或は花の散るも知らず
或は月の照るに背き
ひたすら 學びの 道にぞ進まん
あはれ 學友よ 手をばとりて

二、香も高く窓に吹ける
學びの風を身にぞうけて
かやく 御國に いさをし立てん
あはれ 學友よ 手をばとりて

三、
あはれ 學友よ 手をばとりて
かやく 御國に いさをし立てん

安 東 正 郎

霰

獨逸民謡

霰

♩ = 92. *mf*

1. キヘイモスギヌフユノミチヲハラ
 2. いくさもせざるふゆののへにう

セクルバンバノヒヅメノオト
 ちだすはうだんむすうのたま

イデテミヨヤカレクサニア
 ひろへひろへさくはなの

ラシマジリーニフルアラレレ
 ぼみぞみえてふるあられれ

マロカシラタマラララードレルシラタ
 びるるぎんわいららくーたくるするしや

四四

マララハラハララコロコロチザサノウヘーニ
 うららうつくしうるはしいたやのうへーに

⌘ 連続記號

⌘ 終止記號

霰、連続記號、終止記號

霰

一、
 騎兵もすぎぬ冬の道を
 馳せ来る萬馬の蹄の音
 出でて見よや枯草に
 まろがる白玉ラララをどれる白玉ラララ
 ハラハラコロコロ小笹の上に

二、
 軍もせざる冬の野邊に
 出でて見よや枯草に
 嵐まじりに降る霰
 うち出す砲彈無數の玉
 飛び散る銀塊ラララ
 碎くる水晶ラララ
 うち出す砲彈無數の玉
 飛び散る銀塊ラララ
 碎くる水晶ラララ
 うち出す砲彈無數の玉
 飛び散る銀塊ラララ
 碎くる水晶ラララ

大和田建樹

四五

冬 景 色

ハ - ダ -

冬
景
色



1. カ レ キト - ミ - スル ハ ヤ シ ニ - モ -
2. ね ぐ ら に - い - そ ぐ か ら す の - む -



リ ニ ア ラ シ - ス - サ - ビ オ ト モ サ - ム -
れ も い ゆ き - ま - と - ひ こ ゑ も さ - む -



ケ ク ミ ミ ニ - ヒ - ビ - ク ヨ サ ビ シ
け く み み に - ひ - び - く よ さ び し



ヤ フ ユ ノ ケ シ キ - サ ビ シ ヤ フ ユ ノ ケ シ キ
や ふ ゆ の け し き - さ び し や ふ ゆ の け し き

四六

冬
景
色

冬 景 色

一、 枯木と見する

嵐 荒 び

音も寒けく

林に森に

犬
童
球
溪

淋しや 冬の景色 淋しや 冬の景色

二、 時に急ぐ

いゆき迷ひ

聲も寒けく

鴉カラスの群も

淋しや 冬の景色 淋しや 冬の景色

耳にひびくよ

四七

日章旗

獨逸民謡



1. ヒラヒ ラノキバニタ カク ナビク ヒーノミハ タ アナタ
 2. ひらひ らマストにた かく なびく ひのーみは た あなた



フト アナイサ マーシ アマツ ヒノミカ ゲ
 ふと あないさ まーし あまつ ひのみか げ



1 | ノ ベ ノ ク サ モリ ヒ カ レ フ シ
 | サ ビ ノ ヒ カ リ カ ガ ヤ ク
 2 | う み の そ ど の の く に た み
 | れ こ を き み の み ひ か り



ミ ネ ノ キ ギ モ ナ ビ キ ス ア シ
 キ ミ ノ ミ イ ツ タ フ ト -----
 こ こ ろ よ り ど あ ふ か む こ
 こ れ ど く に の み さ か ----- え

日章旗

宮 脇 義 臣

一、 ひらひら 軒端のきばに高く なびく日の御旗
 あなたふと あないさまし 天つ日の みかげ

野邊の草も ひれふし
 峰の木々も なびきぬ

朝日のひかり かぎやく
 君の御稜威 たふとし

二、 ひらひら マストに高く なびく日の御旗
 あなたふと あないさまし 天つ日の みかげ

海の外の 國民こゝろよりぞ 仰がむ

これこそ 君の み光ひかり
 これぞ 國の みさかえ

慈 母

ヘーイス。

慈
母

♩ = 108
mf



1. ヤダケニ クルヒテ オホジシ キタル
2. もえたつ ごふわの ほのほの さなか

オオワガ マナゴハ イツコヘ ニキシ
まなごは ねむれり あーあー あこよ

マナゴハ カシコゾ ドクガハ セマリ
ほのほは いよいよ たけりに くるふ

ワガミヲ オモハン イトマモ アラズ
みだるる おもひは わがこの うへに

タチマチ ハシリテ ワガコヲ スクフ
たちまち をごりて ほなかに すくふ

ハハソノ オンアイ シシナホ サケヌ
ははその おんあい ひもなほ やかす

五〇

慈
母

慈

母

(泰西傳説ヨリ)

山岡利生

五一

二

一

燃えたつ業火の
まなごは眠れり
ほのほはいよいよ
亂る、思ひは
忽ちをどりて
慈母の恩愛

やたけに狂ひて
お、わが愛子は
まなごはかしこぞ
わが身を思はん
忽ち走りて
慈母の恩愛

大獅子來る
いづこへ行きし
毒牙は迫り
いとまもあらず
わが子を救ふ
獅子なほ避けぬ

ほのほのさ中
ああ吾子よ
猛りに狂ふ
吾が子の上に
火中に救ふ
火も尙やかず

祝へや歌へ

デュセツク
永井幸次編曲

♩ = 108.



1 | アサ ヒ ニ ハ ユ ル アサ ヒ ノ ミ ハ タ カ ド
ミテ ユ ク ヒ ト ノ カ ホ ニ モ ミ エ テ ヨ ロ
2 | た だ よ ふ く も の い ろ に も し る く め て
そ よ ふ く か ぜ の お じ に も し る く た の



ナ ミ タ ツ ル ケ フ ノ コ ノ ヒ
コ ビ ミ ツ ル ケ フ ノ コ ノ
た さ み す る け ふ の こ の ひ
し さ ひ び く け ふ の こ の



ヒ イ ハ ヒ テ ウ タ ヘ コ エ ラ タ カ ク
ひ い は ひ て う た へ こ ゑ を た か く



ノ キ バ ノ ス ズ メ モ チ ヨ ト ソ ウ 久
そ ら と ぶ か ら す も か か と ぞ よ ば



フ イ ハ ヒ テ ウ タ ヘ ケ フ ノ ヨ キー ヒ
ふ い は ひ て う た へ け ふ の よ きー ひ

祝へや歌へ

五二

二

一

空 樂 そ 漂 ふ 軒 喜 道 旭
祝 と 祝 し よ め 雲 端 祝 愉 門 旭
ひ ぶ 祝 し ふ だ へ 祝 び 人 映
て 鴉 ひ さ く た の 雀 満 樹 映
歌 も 歌 ひ ひ 風 の 雀 歌 の つ る
へ へ く の 見 する へ へ へ

音 色 顔 旭
佳 け に け に 千 け に け の
け 佳 聲 ふ も ふ も 代 聲 ふ も ふ の
ふ と を の し の し け 代 聲 ふ の 見 の 旗
の ぞ 高 此 る 此 る け 代 聲 高 此 此
佳 呼 く の く の く 佳 う 高 の て の
き ば 日 日 佳 き た 日 日
日 ふ 日 ふ 日 ふ

祝へや歌へ

犬
童
球
溪

祝へや歌へ

五三

早 春

エメルソン.

♩ = 63.

早

1. フクヤハルカゼノノドカナル
2. かすむみそらのほのかなる

春

サスヤオホヒカゲアタタカニ
どりのなかくわはほがらかに

キギリゴズエノアタミツツ
よりのながめはうらうらど

ノソミミテルハルハノソミミテル
ひかりみてるはるはひかりみてる

五四

ハルハ イマゾキータ
はるは いまぞきーた

早

春

早 春

一、

吹くや 春風の
射すや おほ日かげ

木々の梢の

のどかなる
あたゝかに
青みつゝ

松 岸 寛 一

希望みてる 春は

希望みてる 春は

今ぞ来る

二、

かすむ み空の
鳥のなく音は

ほのかなる
ほがらかに

四方のながめは

うらくくと

光みてる 春は

光みてる 春は

今ぞ来る

五五

告別の歌

武島又次郎

一、美德の眞玉 知識の鏡 心の光 添へ得し恩恵

千々の一つも かへさぬものを 師の君あとに 教への庭

別れてゆかん 心悲し

二、園生の遊び 野山の旅路 袂つらねて あまたの月日

同じこゝろに むつびしものを 友を見すて、 學びの庭

立ちさりゆかん 心悲し

三、さはれなげかじ いざ今よりは 絶えず心の 駒鞭うちて

學問の高嶺 この世の海 教へのまゝに 奥を分けん

訓言のまゝに 安く越えん

告別の歌

シルヘル.

♩ = 76.



1. ビ トクノ マタマ チシキーノカ ガミ
 2. そ のよの あそび のやまーのた びぢ
 3. サ ハレナ ゲカジ イサイーマヨ リハ



ゴ コロノ ヒカリ ソヘエーシメ グミ
 た もとつ らねて あまたーのつ きひ
 タ エズコ コロノ コナムーチウ チテ



チ チノヒ トツモ カ ヘサヌ モノヲ
 お なじこ ころに む つびし ものを
 マ ナビノ タカネ コ ノヨノ ウーミ



シ ノキミ アー トー ニー ラ シーヘノ ニ ハ
 と をみ すー てー てー ま なー びの に は
 ヲ シヘノ マー マー ニー オ クー チワ ケン



ワ カレテ ユー カー シー コ コー ロカ ナシ
 た ちさり ゆー かー んー こ こー ろか なし
 サ トシノ マー マー ニー ヤ スー クコ エン

樂典總括

●の附したる分は第一學年に學習したるもの
 ○の附したる分は第二學年に學習したるもの
 △の附したる分は第三學年に學習したるもの

第一章 ●音樂 ●音名 ●階名

第二章 ●音 符

第三章 ●休 止 符

第四章 ●譜表^{加線}音部記號

第五章 ●拍 子
 ●強 起 弱 起

第六章 ●音 階 轉 調

- 長音階、ハ調長、ト長調、ヘ長調
- ニ長調
- \flat ロ長調
- イ長調
- \flat ホ長調
- △ 嬰變兩種長音階の各調子 (六頁參照)

轉 調

- ハ長調より ト長調に
- ハ長調より ヘ長調に
- ト長調より ニ長調に
- ヘ長調より \flat ロ長調に
- ニ長調より イ長調に
- \flat ロ長調より \flat ホ長調に

第七章 音程及其轉回

- 一度音程
- 二度音程
- 三度音程
- 四度音程
- 五度音程
- △ 六度音程 (四頁・七頁參照)
- △ 七度音程 (五頁・七頁參照)
- △ 八度音程 (六頁・七頁參照)
- △ 音程の轉回 (四度・五度)
- △ 音程の轉回 (七頁參照)

第八章 臨時記號

- # 嬰 (シャープ)
- ♮ 本位記號 (ナチュラル)
- ♭ 變 (フラット)

第九章 ●發想記號并=發想標語

第十章 △和音及和聲

(一〇頁參照)

- △ 長音階の三和音 (一〇頁參照)
- △ 七の和音 (一〇頁參照)
- △ 短音階と主音導音 (三四頁參照)
- △ 長音階と短音階との對照 (三五頁參照)
- △ 短音階の三和音 (三七頁參照)

第十一章 雜記號

- 延長記號 (ポーズ)
- 結合線 (タイ)
- 連結線 (スラー)
- 圓點 (スタツカート)

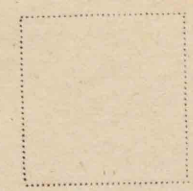
- 垂點 (スタツカティツスイモ)
- 反復記號
- 省略記號
- △ 連續記號 (四五頁參照)
- △ 終止記號 (四五頁參照)

第十二章 ○聲域

昭和七年九月二十日 印刷
 昭和七年九月二十五日 發行
 昭和八年十二月二十日 修正再版印刷
 昭和八年十二月二十五日 修正再版發行

昭和實科
 女子音樂教科書三
 定價 金 四 拾 錢

(略名) 大音永井實科音樂



著者 永井幸次
 田中銀之助

發行者 東京市麴町區飯田町二丁目二十番地
 中等學校教科書株式會社

代表者 山本慶治

印刷者 大阪市天王寺區大道一丁目一一七番地
 多野明

西大 一二八五

發行所

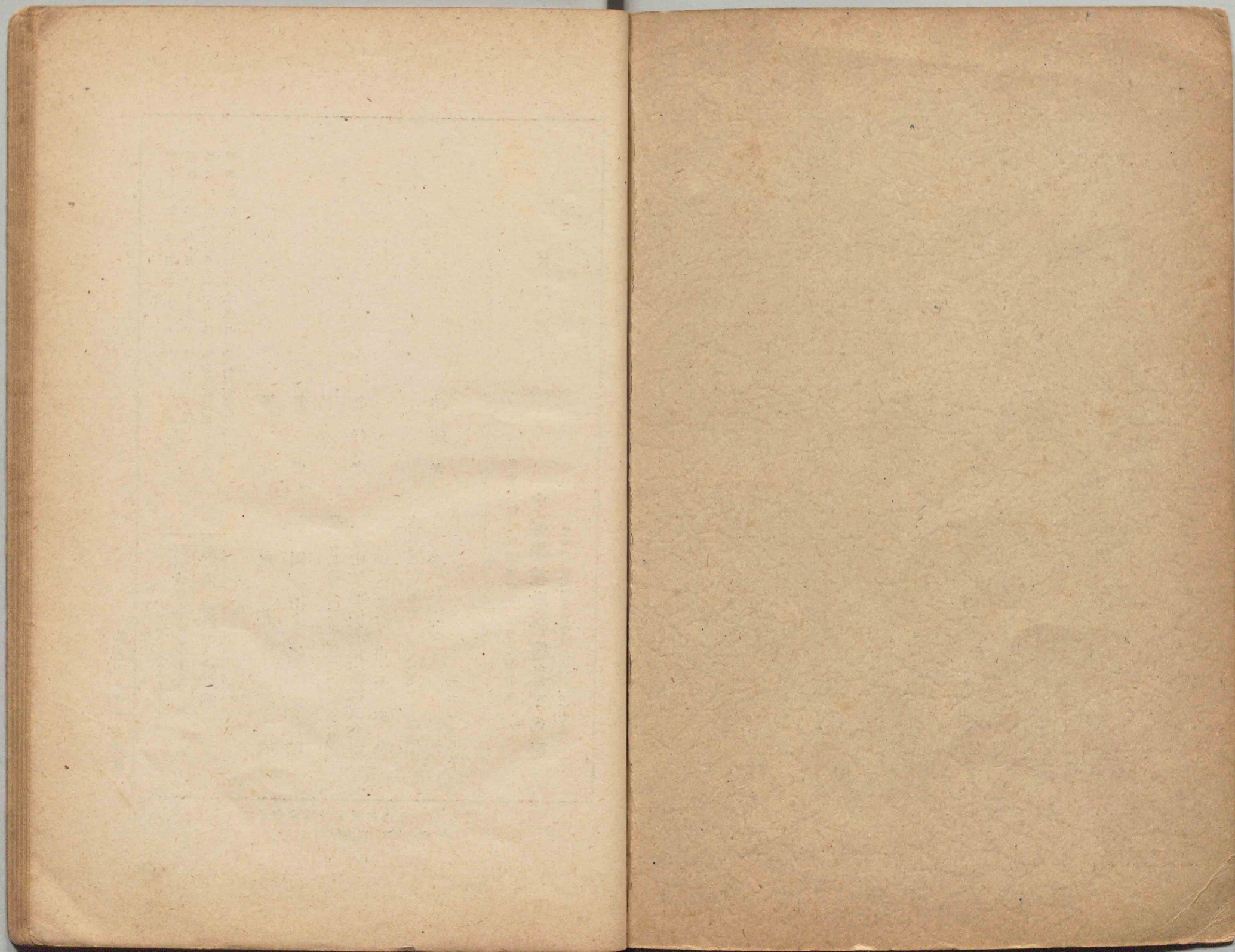
東京市麴町區飯田町二丁目二十番地

中等學校教科書株式會社

日本出版文化協會會員番號 一一七五二二

配給元 日本出版配給株式會社
 東京市神田區淡路町二ノ九

1980.1.2



三年梅組
平野 欽子

広島大学図書

0130449452

